

# 混沌とした中から

## 懐かしいパソコン雑誌(その3)

初期のパソコン雑誌(最初の頃はパソコンという言葉も無かったのでコンピュータ雑誌となっていたのですが)にはハードウェアの作成記事がいろいろありました。まだ周辺機器のメーカーもあまりなかった(I/OデータもNECのPC98などのための周辺機器で進出した)ためもあるのですが、いろいろなものが載っています。そういえば私が最初に買ったのは日立のワンボードH68-TRですが、標準のメモリが1kBのため1kB増設したものです。容量は1GBでも1MBでもありません、たった1kBです。今メモリの増設といえばメモリボードを買ってきて差し込めばいいのですが、その頃はそういうわけにも行きません。1024ビット(ビットですバイトではありません)のメモリICを買ってきて(それも8個も)ボード上に半田付けしたものです(このあたりの古いコンピュータの話は第7号ぐらいに書いたのでこの程度にします)。記事として最初はジョイスティックや多点温度計などがあります。このような記事は大分長い間中心となっていて、PC98が発売されてもメモリボードの製作、各種インターフェースボード(音声出力、MIDI、音声入力など)など、実に実用的です。確かに昔のにおいがする雑誌の「I/O」には今もいろいろな製作記事があったりするようですがこのごろはほとんど見られなくなっています。

それと初期のパソコン雑誌の特徴にゲームプログラムの掲載があります。初めにBASICがソノシートで付録になっていたと書きましたが、そのうちにフロッピーが登場して価格が1枚数十円になった頃に雑誌にフロッピーが付いていたことがあります。もちろん最初は5インチフロッピーです(5インチフロッピーも見たことない人が多くなってきているのだらうと考えると考え深いのですが)。そのうち3.5インチになりました。そして登場したのがCD-ROMです。フロッピーディスクが付録になったときはどうだったか記憶がないのですが、CD-ROMが付録になったときは問題が発生したようです。はじめはASCIIだったと記憶するのですが、本の流通とCD-ROM(CDがあったためか)の流通と一緒にしてはいけないという横槍があって、最初の付録は交換カードか何かが付いてきて出版社であるASCIIに送ればCD-ROMが送付されるというものだったと思います。今はそんなこと考えられないのですが、はじめというのはいろいろあるものです。だいたいゲームプログラムから離れてしまいましたが、もうすこし。私の買ったH68-TRにもゲームプログラムは売っていました。話の流れからわかると思いますがもちろん媒体はカセットテープです。そのあとで5インチや3.5インチのフロッピーの事態となるのですがカセットテープの時代もあったのです。最初の頃のゲームで有名なのは「STARTRUCK」です。もちろんあの有名な宇宙船のゲームですが、今のようなグラフィックがあるわけもなくどう遊ぶかと思われるかもしれませんが、エリアは8×8のマス目があってその中にエンタープライズ号と敵のクリンゴン星人がいます。クリンゴン星人はその中に隠れていて攻撃してくるのですが、エンタープライズ号は移動しながら探索し、発見すると攻撃するというテーブルゲームの潜水艦ゲームみたいなものです(今度は潜水艦ゲームを説明しなければならないのかな)。初期の雑誌にはこのプログラムのソースリストが載っていたものです。もっと初期になるとBASICではなく機械語のアセンブラのリストも載っていたものです。もちろんフローチャートもしっかり載っています。今見ると320行ぐらいのBASICプログラムで立派にゲームになっています。(次回続く)

(今週の情報誌から)

○日経SYSTEMS 8月号

特集 ソフトウェア改造力

→ソフトウェアの改造がトラブルの温床になっている。ソフトウェアにつきものの改造。しかし対応できる改造力が足りない。改造にはやり方がある。対応すべき案件を選び、改造の影響を調べるなど。

○ASCII 8月号

特集 パソコン30周年

→日本の個人用マイクロコンピュータのスタートともいえるNECのTK-80が発売されて30年。パソコン雑誌ASCIIが発売されて29年となるが、その30年を振り返る。ASCIIは一旦休刊となり3ヵ月後にビジネス向けに再出発する。